

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人つばさ 矢板事業所		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	制作活動や季節的なイベント開催により、様々な経験や体験を提供し活動プログラムが固定化しないよう工夫されている。	季節や行事に合わせた制作活動や、地域ボランティアの協力を得てイベントを実施すること、また運動や感覚を始めとした5領域を意識したオーダーメイド型の本人支援を実施している。	保護者向けに、活動や制作あるいは遊んでいる姿等を見る機会を増やすと共に、保護者同士の繋がりが図れるよう取り組んで行く。
2	多機能型(児童発達支援と放課後等デイサービス)のメリットを享受するとともに、切れ目のない支援が可能。	特に長期休みの制作や外遊び等において、幼児～中学生までの幅広い年齢層の子ども達と一緒に活動を取り入れている。また、幼児期から学齢期へと進んでも、慣れた職員や活動の継続により、環境の変化による不安を軽減している。	小学生以上の子どもには、未就学児の手本になるような意識付けを行うことにより成長を促し、制作等一緒に作り上げる喜びや達成感を覚えられるよう工夫していく。また、幼児期と学齢期での支援のアプローチの違いを認識し、それぞれの心理的变化の理解を深めていく。
3	発達に応じた作業療法や言語療法の専門指導のほか、心理士によるカウンセリング等を実施している。	個別や小集団による専門指導を定期的実施するほか、職員による保護者相談以外に、希望により心理士によるカウンセリング実施の機会を設けている。また、行政と連携しペアレントトレーニングも実施している。	個別や小集団による専門指導と通常支援を療育の両輪と捉え、保護者要望も伺いながら継続的に実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会を設けることが少ない。	交流機会を求める声(少数派)と、現状で満足(多数派)との意見が分かれていることに加え、日常生活が忙しいご家庭が多くニーズに応じた柔軟な対応が必要。	事業所における年間計画に盛り込んだうえで、療育場面の見学・確認や保護者自身の関りを行える保護者参観等の機会を増やし、必要に応じ交流を促していく。
2	移行支援と地域の他の子どもとの交流機会への取り組み。	早期療育の影響もあり、保育園等併行通園に向けての療育という位置づけとなっている。また、地域のボランティア等への協力依頼によりイベントを開催することや園外活動を積極的に取り入れている。	インクルージョンの考え方に立ち、同年代の子どもをはじめとした地域における仲間づくりを意識していく。また、併行利用先との連携を図りつつ、子どもの状態や親の意向を踏まえ移行先の見学調整や受け入れ体制づくりへの協力を行っている。
3	環境面(庭の水捌けやトイレ環境等)の改善が十分なものとなっていない。	旧小学校の敷地と建物ということもあり、雨天時の水捌けの悪さや児室とトイレとの距離があり冬季は気温が低い。	適宜環境整備を進めることと、距離間をカバーする人員確保や暖房機器の活用による冬季の温度管理に注意を払い、排泄に対する障害とならないよう配慮していく。また、教室や廊下等の危険箇所を確認し、怪我に対する予防的処置を施していく。